



誰がための 公共経済か？

—改めて、公共の意味を問い直す—

Symposium

2025年

12月6日(土)

時間 14:00-17:00

場所 関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス
B号館 201教室

兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155

定員 100人(先着)

主催 国際公共経済学会
第40回研究大会実行委員会

申込

右のQRコードを読み取り
申込フォームからお申し込み下さい。
先着人数に達し次第、募集を締め切らせていただきます。



(西百無) 第0376号

公開シンポジウム内容

現代社会は既存の公共経済の前提を揺るがす転換期にある。例えば、公共事業の効率性や正当性の再検討、社会的企業やNPO・CSV（Creating Shared Value）が拓く包摂的経済、さらにAI・デジタル技術の進展に伴うプラットフォームや情報インフラの設計など、新たな公共性を再構築する動きが交錯している。

こうしたプロセスのなかで、政府・市場・市民社会の役割はいかに再編され、誰が設計・参画し、どの利益とリスクを担うのか。新たな公共性がうたわれて久しい今、改めて公共の意味を問い直し、公共経済の理論と実践を架橋する新たな知の探求が求められている。

本シンポジウムでは、学会員以外にも広く参加を呼びかけ、持続可能で包摂的な社会の実現に向け、「誰がための公共経済か？」という原点的な問いを共有しつつ、公共的な取り組みに関わる実践者・アカデミアとのディスカッションを通じて、公共経済の未来像を切り拓くことを目指す。

シンポジスト：

石田哲也（一般社団法人こんぴら観光まちづくり協会）

伊藤昭浩（名古屋学院大学）

長峯純一（関西学院大学）

宮浦恭弘（大阪駆動開発コミュニティ）

<五十音順・敬称略>

コーディネーター：西田亮介（日本大学）